（様式第３号）

令和５年１月 30 日

登米市議会議長　關　　孝　殿

岩　渕　正　弘

調　査　報　告　書

調査の概要は次のとおりであります。

記

１．　調査目的

（１）山口県下関市（ジビエ有効活用推進事業について）

下関市では、農林作物等の被害軽減のために、捕獲したイノシシ及びシカを地域資源として有効活用するため、県内初の公設による有害獣食肉加工処理施設を設置している。加工、販売については、指定管理者の自主企画事業である。

本市においても、イノシシ及びシカによる農作物等の被害が毎年増えていることから、下関市の取り組みを視察することにより、地域資源として有効活用できることを提案するために調査する。

（２）広島県神石高原町（ドローンの利活用について）

市街地の上空など、操縦者の目が届かない距離でもドローンを自動で飛ばすことを解禁する改正航空法が昨年 12 月５日に施行された。さまざまな社会課題の解決につながるとの期待が大きい。

神石高原町は昨年４月、ドローンフィールド２カ所をドローン事業者や自治体向けの体験及び実証実験施設として正式オープンした。その取り組みを視察することで、本市におけるドローンの利活用について提案するために調査する。

（３）岡山県高梁市 JA 晴れの国岡山 高梁支店（ブドウ栽培事業について）

シャインマスカットは歴史が浅いが、今や国内市場ではブドウ品種の中で一番人気である。本市においても、ビニールハウスを利活用して、栽培に取り組む農家が徐々に増えてきている。現在、国内において産地の一つとして挙げら

れるのが「果物王国」岡山県である。

本市の農業においては、若い世代の新規就業者の確保・育成が課題の一つとなっている。また、果樹においては、新たな作物の生産に取り組むことも必要であると考える。これらの解決に向けた方策として、JA 晴れの国岡山の取り組みの現状を視察し、さらに本市で栽培を促進する上での課題解決の参考とするため調査する。

2．調 査 先　　山口県下関市、広島県神石高原町、
JA 晴れの国岡山 びほく広域営農経済センター

3．調査期間　　令和 5 月 1 月 18 日から
令和 5 年 1 月 20 日まで　3 日間

4．調査の経過と結果並びに所感　　別紙参照

5．添付書類　　調査先の説明資料

倉敷市議会
受
-5.1.30
付

■調査報告書①

1．日　　時　　令和5年1月18日（水）　13時30分から15時

2．場　　所　　山口県下関市役所

3．目　　的　　ジビエ有効活用推進事業について

4．説 明 者　　下関市農林水産振興部 農業振興課 有害鳥獣対策室
室長（課長補佐）　田中　剛雄　氏

5．所　　感

下関市では、農林作物等の被害軽減のために捕獲したイノシシ及びシカを地域資源として有効活用するため、公設による有害鳥獣食肉加工施設を設置していた。（令和3年度捕獲実績：イノシシ1,361頭、シカ2,274頭）

加工、販売は指定管理者の自主事業であるが、鮮度を保つ品質管理に問題があり、廃棄焼却されていた。また、指定管理事業者は現在1社で運営していたが、4社の指定管理事業者がないと適正な管理運営はできないと感じた。

本市においても、イノシシ及びシカによる農作物等の被害金が500万～600万と毎年増加していることから、下関市が実施する有害鳥獣を地域資源として有効活用した取組を参考にしたいと思った。

■調査報告書②

1．日　　時　　令和5年1月19日（木）　13時30分から15時

2．場　　所　　神石高原町役場

3．目　　的　　ドローンの利活用について

4．担 当 者　　未来創造課 課長　高橋　徹朗　氏
　　デジタル推進室 デジタル推進係 主査　中野　達也　氏

5．所　　感

広島県神石高原町では、ドローンの社会実装へ向けた取り組みとして、2019年より防災・減災をテーマとしたドローン事業を推進していた。2021年からは、より防災に特化させ、災害時にドローンを活用した災害状況の把握を町民主体で実施できる仕組みづくりの構築に向けて取り組んでいた。今後は、空中からの農薬や肥料散布、農作物の生育状況のモニタリングなど、活用分野の拡大を図りたいとのことであった。

また、ドローンフィールドを広く活用してもらうことで、企業が抱える課題・問題を解決するための実証実験や企画の骨組みだけで終わらせるのではなく、社会への実装支援を行い、暮らしや生活に価値のあるドローンの活用を応援、推進することを目指したいとのことであった。

■調査報告書③

1．日　　時　　令和5年1月20日（金）　9時から10時50分

2．場　　所　　JA晴れの国岡山 びほく広域営農経済センター

3．目　　的　　ブドウ栽培事業について

4．担 当 者　　JA晴れの国岡山 びほく広域営農経済センター
　　センター次長兼販売課 課長 [redacted] 氏
　　販売課 課長代理 [redacted] 氏
　　JA晴れの国岡山 びほくぶどう生産部会
　　部会長 [redacted] 氏

5．所　　感

びほく地域は、標高300～500mの吉備高原の台地に広がっているため、年平均気温が12.9℃程度と昼夜の温度差が大きく、着色品種のピオーネを栽培に適しており、大粒で糖度の高いブドウを生産している。

びほくブドウ生産部会では、びほくブランドとして「天空の実り」を商標登録し、ブドウ全般と、トマト（もも太郎）、ピオーネの赤秀を「美王」として独自ブランドをPRし、販売強化を図っているとともに、将来を見据えた事業経営計画を策定し、実践していた。

農家経営者に一反（300坪）当たりの収入を聞くと、250万円とのことで、収入の多さに驚いた。

視察を通し、新たな作物の生産に取り組む必要性、本市農業を促進する上で重要な課題解決につながる知識の習得ができた。